

2019. 10. 1 (水) - 10. 27 (日)

休館日 7日(月)、15日(火)、21日(日)

開館時間 10時～18時(入館は17時半まで) ※13日(日)は、金時祭のため8時～16時

観覧料 一般200円 高校・大学生150円 小・中学生100円

※65歳以上は証明書提示で無料

※障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名無料

※10名以上の団体は2割引

岡本綺堂没後80年 岡本経一 生誕110年

最後の江戸っ子

岡本綺堂・経一の仕事

主催 岡本綺堂没後80年岡本経一 生誕110年記念事業実行委員会

共催 勝央町、勝央町教育委員会、公益財団法人美術文化振興財団、勝央町文化協会、勝央町文化財保護委員会
NHK岡山放送局、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送

後援 KSB瀬戸内海放送、テレビ津山、山陽新聞社、津山朝日新聞社、エフエム岡山、エフエムつやま

助成 公益財団法人福武教育文化振興財団

協力 郡山市こおりやま文学の森資料館



勝央美術文学館



Okamoto kyoichi



Okamoto Kido

岡本綺堂・経一の仕事 最後の江戸っ子

岡本綺堂没後80年 岡本経一 生誕110年

勝央町縁の作家で捕物帳の祖といわれる『半七捕物帳』を書いた岡本綺堂の没後80年と、綺堂の養嗣子*で勝央町出身の出版人岡本経一の生誕110年を記念して展覧会を開催します。

当館が所蔵する二人の関連の資料、著書や草稿、テレビドラマの脚本など約70点を展示。東京がまだ江戸と呼ばれた頃の姿を瑞々しく物語に描いた綺堂と、綺堂の業績と江戸の文化を後世にきちんと残すことに生涯を費やした経一の仕事を改めて紹介します。

また、関連企画として記念演劇公演『往来～綺堂・ホームズ・恋と魔犬～』（仮）を開催、演劇を通じて岡本綺堂という作家とその生きた時代背景、作品とその変遷について再考します。



岡本綺堂『半七捕物帳全五巻』青蛙房

*ようしし：民法旧規定で跡継ぎの養子のこと



岡本 綺堂

(おかもと きどう、1872 - 1939)

《劇作家・小説家》

明治5(1872)年11月15日(旧:10月15日)、元徳川幕府御家人で維新後にイギリス公使館に書記として勤めた敬之助(後に純)の長男として東京の芝高輪に生まれる。本名 敬二。

周囲の影響で、幼い頃から漢詩と英語に親しんだ。15歳で劇作家を志す。東京府尋常中学を卒業後、新聞社入社。劇評も担当し、24年間記者生活を続ける。明治29(1896)年に処女作「紫宸殿」を発表。『維新前後』を書いたのが機縁で二代目左團次のために多くの戯曲を書き、【新歌舞伎】の第一人者となる。

書き、【新歌舞伎】の第一人者となる。

代表作に『修禅寺物語』『鳥辺山心中』など。綺堂が描く江戸は、考証的に正しく『半七捕物帳』『三浦老人昔話』などの読物100編は、長く読まれている作品である。劇作家として後進を育てるため、昭和5(1930)年に月刊誌「舞臺」を創刊した。門下に、額田六福、北條秀司、中野実、大村嘉代子ら。



撮影：大場正史

岡本 経一

(おかもと きょういち、1909 - 2010)

《出版人》

明治42(1909)年3月25日、現在の勝央町岡に生まれる。旧姓 森部。

大正12(1923)年上京。同14(1925)年同郷の額田六福の紹介で岡本綺堂の書生となる。

昭和12(1937)年、子どものなかった綺堂夫妻は、真面目で実直な性格の経一を見込んで養嗣子とした。

綺堂の死後、戦争の混乱期を経て、出版社〈青蛙堂書房〉を立ち上げるが倒産。綺堂の17回忌の昭和30(1955)年に〈青蛙房〉を再び立ち上げた。本の制作

では、企画・編集・校正を自ら行い、昭和42(1967)年、江戸時代風俗研究書の出版活動が認められ、第15回菊池寛賞受賞。また平成元(1989)年には、『岡本綺堂日記』の「綺堂戯曲年表」が評価され、第24回長谷川伸賞を受賞。主な出版物:『私のあとがき帖』(1980/青蛙房)『岡本綺堂日記』(1987/青蛙房)

関連イベント

◆朗読会

岡本綺堂『半七捕物帳』『お文の魂』『向島の家』より

日時 10月1日(火) 10:30～ 申込不要

会場 勝央美術文学館町民ギャラリー1 要本展観覧券



紙芝居おじさん

併設の勝央図書館に突如として現れ、子どもたちに絵本を読んで聴かせていた。聴く者を魅了する語り口調を持つ。図書館公認となり、月に1度、同館で紙芝居を読んでいる。

◆演劇公演

『往来～綺堂・ホームズ・恋と魔犬～』（仮）

四国を拠点に活動する劇団、

【株式会社マエカブ】と【Unit out】による合同公演

日時 ①10月19日(土) 開場18時半/開演19時

②10月20日(日) 開場12時半/開演13時

会場 勝央美術文学館町民ギャラリー1

チケット 前売券2,000円(公演前日まで販売)

当日券2,500円

販売場所 勝央美術文学館 10/1 ④ 11:30 から発売

※電話予約可 ※未就学児は入場不可

※公演チケット(半券可)提示で、本展も観覧できます。

★アフタートーク ※②10/20 公演後

ゲストに、作家・翻訳家、シャーロック・ホームズ研究者である北原尚彦氏をお招きしての対談!

株式会社マエカブ

香川県(高松市、坂出市)を拠点に活動中の社会人劇団。演劇をもっと身近に感じてほしいという想いから、2011年5月21日に設立。

Unit out

愛媛県松山市を拠点に演劇活動を行う小集団。

主宰・玉井江吏香。

年に1~3本の中・短編を創作・上演。人の佇まいや言葉や会話、それらによって変わっていく空気を大切に作品づくりをしている。



北原尚彦(きたはら なおひこ)

1962年、東京都生まれ。青山学院大学理工学部物理学科卒。作家、翻訳家、シャーロック・ホームズ研究者。日本推理作家協会、日本古典SF研究会会長。主要著書は小説『ジョン、全裸連盟へ行く』(ハヤカワ文庫)、『ホームズ連盟の事件簿』(祥伝社文庫)など。『シャーロック・ホームズの蒐集』(東京創元社)で日本推理作家協会賞候補となる。huluドラマ『ミス・シャーロック』などホームズ関連番組の監修も務める。



- JR岡山駅(津山線)で約1時間
→津山駅(姫新線20分)
→勝岡田駅下車徒歩15分
- 中国ハイウェイバス中国勝岡田下車すぐ
- 中国自動車道勝央ICより約5分
/津山ICより約15分
/美作ICより約10分

Facebook

ホームページ



勝央美術文学館 SHOO MUSEUM OF THE ARTS
〒709-4316 岡山県勝岡田郡勝央町勝岡田207-4
Tel.0868-38-0270/Fax.0868-38-0260
http://museum.town.shoo.lg.jp